



NEWS LETTER

No.17
2015

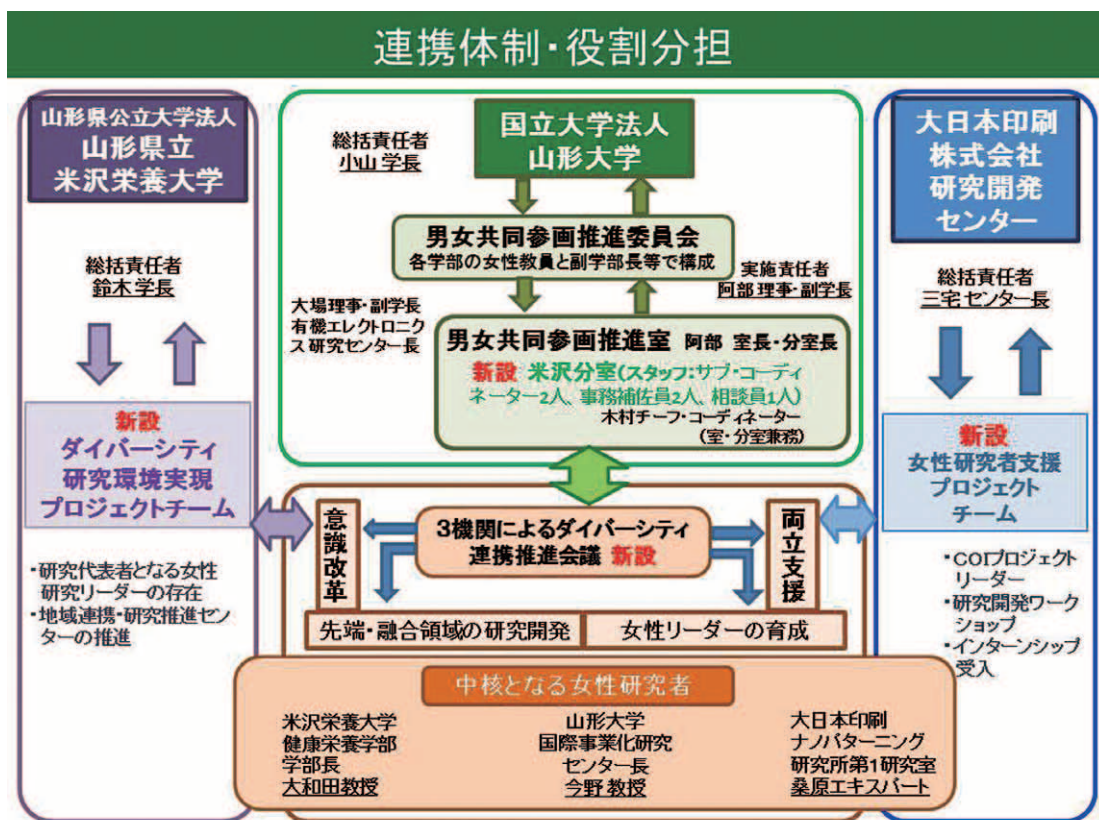
平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」に採択されました テーマ「有機エレクトロニクスを活用した未来の生活創造への女性研究者の参画」

(連携機関) 山形大学 大日本印刷株式会社 研究開発センター 山形県立米沢栄養大学

女性研究者の裾野の拡大と、女性研究者の研究力向上及び上位職への積極的登用を目的とした補助事業(連携型)に採択されました(7月15日発表)。

3機関が連携し女性の共同研究を支援することで、目的を達成する事業です。



3機関合同 共同研究開発セミナー&ダイバーシティ研究環境実現 管理職研修会(どなたも参加できます。)

日時: 10月23日(金) 13:00~17:00 場所: 山形大学工学部百周年記念会館セミナールーム(1階)

第1部 共同研究開発セミナー (13:00~14:45)

(女性、男性を問わず、研究者、学生、企業の方他 歓迎)

1. 共同研究シーズ交換(13:00~14:00)
 - ・参加者自己紹介
 - ・研究シーズ紹介
2. 共同研究支援の紹介(14:00~14:45)
 - ・3機関の担当者紹介
 - ・各種支援制度について
 - ・研究倫理について
 - ・研究開発ワークショップについて
 - ・研究費の申請・執行について
 - ・質疑応答

第2部 ダイバーシティ研究環境実現 管理職研修会

(15:00~17:00)(3機関の管理職他どなたでも歓迎)

- ・開会の挨拶 小山学長
 - ・調整中
文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課
 - ・特別講演「女性研究者のこれまでとこれから
~今がチャンス! 未来創造への参画の期待~」
小舘香椎子氏(電気通信大学特任教授、日本女子大学名誉教授)
 - ・3機関からの取組紹介
 - ・質疑応答
 - ・閉会の挨拶 阿部理事・男女共同参画推進室長
- 情報交換会(17:00~18:30) cafe 吾妻(2階)

3機関の強みを活かし、女性研究者の活躍促進を図ります

1. 両立支援制度の構築

男女共同参画推進室米沢分室

相談員制度

託児サポーター制度 他

2. 女性研究者の裾野拡大

交換留学プログラム

博士課程進学相談会

メンター制度 他

3. 女性を含む共同研究促進

研究継続支援員制度

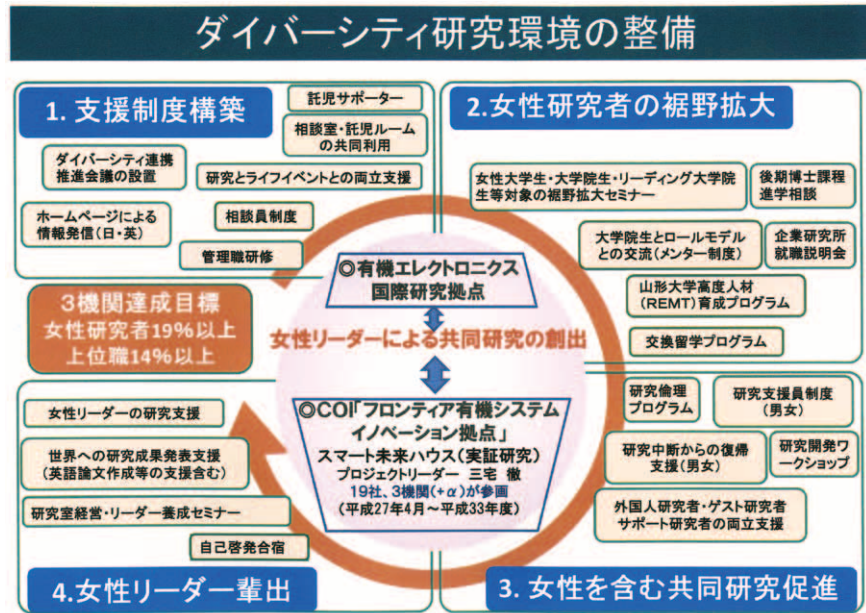
復帰支援制度

研究開発ワークショップ 他

4. 女性リーダー輩出

女性が代表の共同研究支援

自己啓発合宿 他



選定コメント(科学技術振興機構「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業委員会」)

評価できます

代表機関の特色をなす有機エレクトロニクス研究及び実証ハウス研究におけるこれまでの実績を活かし共同実施機関と協働し、女性研究者が参画する共同研究を推進するとともに、研究スキルアップ支援、リーダーシップ育成、裾野拡大の取組を進め、工学系分野を中心に優れた女性研究者を女性限定公募等のポジティブ・アクションにより上位職階教員(教授、准教授)として積極的に登用する計画は評価できる。

期待します

3機関の強みを活かし既存の連携を超えたより密接な連携体制を構築し、工学系分野のみならず自然科学系の広い分野において女性研究者の上位職(教授、准教授)への登用を進め、その活躍促進を図ることを期待する。

次世代育成支援対策推進法にもとづく 第4期一般事業主行動計画を策定しました。

次世代育成支援対策推進法(平成26年4月の改正法施行により平成37年3月まで延長)により、次世代を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を一層進めるため、行動計画を策定・実施しています。

本学では、第4回目の行動計画期間を平成27年度からの4年間とし、次のように策定いたしました。



第3期(平成23年度～26年度)	達成状況	第4期(平成27年度～30年度)
目標1 育児休業の取得状況を次の水準以上にする。 男性職員…1人以上の職員が取得すること。 女性職員…取得率を80%以上とすること。	達成 6人取得 85.7%	目標1 引き続き継続して達成を図ります。
目標2 子の看護のための特別休暇が取得しやすい環境とするため、1日又は1時間単位で取得できるように制度を整備充実するとともに広報にも努める。	達成 就業規則改正(24年)	目標2 新規策定 ワーク・ライフ・バランスに関する懇談会やセミナー、シンポジウム等を年1回以上開催します。
目標3 夏季・年末年始の計画休暇(一斉休業)の長期化を図り、生活のサイクルを踏まえた休養を推奨するなど、効果的な年次有給休暇の取得促進を図る。	年休取得 平均7.3日/年	目標3 引き続き継続して年休取得促進を図ります。

男女共同参画セミナー(7月1日(水))

7月1日(水)

「コンフリクトへの応答～医療メデイエーション概念への誘い～」

講師 ^{いざな}中西淑美 准教授(山形大学医学部総合医学教育センター)

「なぜ、この気持ちをわかってくれないのだろう」、「なぜ、こんなことで怒っているのだろう」と、私たちは日常、様々な意見や利害の対立に直面しています。このような状況をコンフリクト(矛盾・不調・葛藤・不一致・対立・紛争等)と呼びます。このコンフリクトをうまくマネジメントしていくための手がかりを、ワークショップも含めて医療メデイエーションの概念から楽しく教えていただきました。



コンフリクトへの応答… あきらめず「対話すること」

コンフリクトは、「認知の齟齬」から生まれます。その背景には関心や利害、価値観や必要性、世界観などの違いがあります。コンフリクトは、相手方との間だけでなく、自分自身の中にも「これでいいのだろうか」と葛藤が生じます。自分の中にある葛藤と相手方とのトラブルは相互に密接に結びついています。だからこそ、対処が難しいのですが、同時にそこにマネジメントしていくための手がかりがあります。

違いを理解するためには、他者のフレームから問題を眺める作業が必要です。そのためには対話を促進する必要があります。

恐れず、待ち、あきらめず「対話すること」によって生み出される関係の「質」の向上によるコンフリクト・マネジメントが大切です。

教職員、医療関係者、一般の方々を含む30人の参加者が熱心に聞き入りました。コンフリクトを抱えているという参加者から、「楽しく拝聴した。頭の中を整理することができた。」という感想がありました。

ワーク・ライフ・バランス(WLB)で自己啓発

小白川キャンパス ランチミーティング
(6月10日(水) 12:15~13:00)

6月10日(水)

新任の方々を囲んで第1回のランチミーティングを開催しました。現在、単身赴任という方からの話題提供の後、フリートークとなりしました。「休みを取りやすい雰囲気はあるし、いろんなことをやってみたいと思うが、本当に休んでいいのか不安を感じる。」という若手職員の言葉に、「率先してやってみよう。」という先輩の励ましがりました。



これが研究者の仕事と生活

地域教育文化学部 男女共同参画パネル展
(8月1日(土) オープン・キャンパス)

地域教育文化学部
8月1日(土)

大学教員の仕事と生活の一面を17枚のパネル写真で紹介しました。10人の女性教員の姿や家事・育児に取り組む7人の男性教員の微笑ましい姿があり、「お子様と一緒に写っている先生方に大変親しみが持てます」「普段見ることのできない表情を見ることができてよかった」という感想が寄せられました。



「研究者を目指したい!」を応援します。(8月2日(日))

農学部 女性研究者裾野拡大セミナー

「農学部女子! 研究者になる!! ~それってどんな? 何するの? ~」

農学部
8月2日(日)

「将来、研究者になりたい!」そんな思いを抱いていても、高校生にとって「研究者」は漠然としていて将来像を描くのは難しいものです。そこで、具体的に考える機会として企画されました。最初に、藤井弘志教授から「農学部女子卒業生の最近の就職状況と研究職における職務内容」と題して紹介があった後、卒業生である渡部貴美子氏(山形県農業総合研究センター水田農業試験場)から研究員としての職業紹介を、森静香准教授から、研究者としての歩みをワーク・ライフ・バランスの視点から講話があり、その後、ランチをとりながら交流をしました。参加した高校生の一人は、「研究者になるためには、その道で食べていく覚悟がなければ、就いてはいけない職だと思いました。だからこそ、その道に進んだ女性はとても輝いているように見え、憧れています。ぜひ来年、山形大学の学生として入学し、研究者を目指したいです!」と感想を述べていました。



参加者57人(女子高校生34人、保護者他)

ぐんじん
宮瑾 先生

工学部システム創成工学科・助教



◎どのような研究をされているのですか。

結晶性材料、主に結晶性ソフトマターを専門にしています。材料の「組成／構造／かたち」の設計・制御をナノスケールからミクロスケールまで行っています。多彩な「物性」の起源である結晶構造や分子運動を解明し、ゴムの大変形と形状回復特性及びプラスチックの高強度特性の両方を併せもつ結晶性ゲルの開発に取り組んでいます。さらに、これらの強靱結晶性ゲルを高透明化し、レンズなどの光学素子、野菜や果物の鮮度保持への応用を検討しています。

「玉琢かざれば器を成さず、人学ばざれば道を知らず」

◎プロフィールを教えてください。

高校生の時に、理科実験で見た金属の炎の美しさが化学に興味を持ったきっかけです。大学入試の時に、周りの先生方から意見を頂き、当時最も新しく、確立してから40数年しかない高分子材料分野（Staudingerの高分子説、1953年Nobel化学賞）を志願しました。

中国河南省にある鄭州大学で7年間（中国のほとんどの大学は、修士課程が3年です。）勉強し、修士を修了してから、2005年10月に国費留学生として岡山大学の博士課程に入学しました。2008年博士学位を取得後、ポストドクター、会社員、プロジェクト教員を経て、現在本学工学部システム創成工学科の教員として学生の教育に従事しています。さらに、分野横断・融合研究者として、化学、高分子以外の分野、機械（デバイス、ロボット）や物理（光学、放射線）等の広い分野の方々と共同研究を行っており、学際的な新分野の開拓に取り組んでいます。

◎これから研究者を目指す人や学生へのアドバイスをお願いします。

「玉琢かざれば器を成さず、人学ばざれば道を知らず」（漢文原文：玉不琢不成器、人不学不知道。出典：約3000年前の『礼記・学記』）。玉は（もともと美しいが）削って形を整えなければ、器物としての用をなさない。同じように、人も学ばなければ、人としての正しい道が分からない（立派な人物になることはできない）。

「学ぶ力」を身につけてください。学ぶ力は、人にとって、特に研究者にとってはタカラです。研究者には、インプットとアウトプットは非常にアンバランスなものです。百を学んで、アイデアや成果になるのは一か零です。人の役に立つ研究をするには、これからはたくさんの方を学んでください。もちろん研究者にならなくても、学ぶ力を持っていれば、どんどん変わっていく環境や時代とともに成長し続けることができます。

育児休業を取得された男性研究者 **深澤 知先生** (理学部)からの
子育てメッセージ 「超人的な努力を実感しました。」

（平成26年度に48日間の育児休業を取得されました。また、基盤教育ベストティーチャー新人賞も受賞されています。そんな先生からのメッセージです。）

今年2月に2人目の子どもが生まれ、出産後の特別休暇の後、育児休業を取得しました。学科の先生方のご理解があって、授業のテスト、委員会ほか私がやるべき仕事を負担してくださいました。家庭では家事、育児ともに妻と分担しました。

充実した時間を過ごせたのを前提にネガティブなことを書きますが、育児がこんなに「時間を拘束」されるものとは思いませんでした。上の子と下の子が起きている時間の和で拘束されるので、家事に取られる時間も含めると、1日のうち1時間、自分の時間がとればラッキーでした。

このページでは毎回女性の先生方がメッセージを書かれていますが、超人的な努力をされているのだと育児休業を通して実感いたしました。



理学部数理科学科 深澤 知 准教授
3歳と0歳のお子様と

締切
9月30日(水)

Information

女性限定教員公募3件実施中

- ◎締切：9月30日(水)
- ・バイオ化学工学分野 助教1名
- ・応用生命システム工学分野 准教授または助教1名
- ・食品栄養化学分野 准教授または助教1名
- ※詳細は大学HPをご覧ください。

11月2日(月)

Information

工学部女性研究者裾野拡大セミナー

- ◎日時：11月2日(月) 14:25～16:30
- ◎場所：工学部5号館2階227講義室
- ◎内容：講演「理系研究の魅力とは
～山形大学YU-COE(C) TASTY拠点研究紹介～」

12月19日(土)

Information

理学部女性研究者裾野拡大セミナー

- ◎日時：12月19日(土)
- ◎場所：理学部1号館(教室未定)
- ◎内容：「理学部研究室訪問」学科案内、研究室訪問、実験・模擬授業等

編集後記／10月1日から米沢キャンパスにダイバーシティ推進室（男女共同参画推進室 米沢分室）がスタートします。工学部1号館211室ですので、どうぞお立ち寄りください。ワーク・ライブ・バランスの環境を整え、女性研究者によるプロジェクト等への参画や新たな共同研究の開発を後押しします。（2015年9月）



山形大学男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町一丁目4-12
TEL 023-628-4937/4938/4939
E-mail y-danjo@im.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/